

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第4回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 津有区の概要について

② 自主的審議について

3 開催日時

令和2年8月24日（月）午後6時30分から午後7時25分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：猪俣敦子、大滝英夫、小林 進、千代金治、相馬祐一、田中博三（副会長）、
中島 功、藤井 修、藤本孝昭（会長）、古川勝夫（欠席2名）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・会議録の確認者：千代委員

次第2 議題「(1) 協議事項」の「①津有区の概要について」に入る。津有区の概要

として「人口の推移」「公の施設」「前期委員の活動概要」について、事務局に説明を
求める。

【山崎主事】

- ・資料1・2に基づき説明

【藤本会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

短い時間で今ほどの説明をすべて理解することは難しいと思うが、前期の委員がど
のような取組をしたのかについては参考になると思う。各自持ち帰って資料をよく確
認してほしい。以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「①津有区の概要について」を
終了する。

次に次第2 議題「(1) 協議事項」の「②自主的審議について」事務局に説明を求め
る。

【山崎主事】

- ・参考資料に基づき説明

【藤本会長】

地域協議会の役割と自主的審議について改めて説明してもらった。今の説明に質疑
を求める。

(発言なし)

本日はゴールが定かではない。現段階での意見ということで、ざっくりばらんな話を
してほしいと思っている。何についての意見かは、先ほどの事務局の説明にあったよ
うに、今後自分たちが行う自主的審議の進め方のヒントとするために、今後どのよ
うなことをしていけばよいか、また可能な範囲で今現在、各自が把握している津有区に
おける課題、そして津有区を「このようにしたい」といった意見を取り混ぜて、発言
を求めたいと思う。

(発言なし)

なかなか話の取り掛かりが難しいかと思うが、前期委員は「少子高齢化」に着目し
ていたとの説明もあった。その辺りも含めて、今現在の考えがあれば発言願う。

(発言なし)

沈黙していても仕方がないため、例えば今現在、各自が考えている津有区における

課題は何かについて、確定的なものではなくて構わないので、1人ずつ意見をいただきたいと思う。順番に意見を求めたいと思うがよいか。

【小林委員】

本日の配布資料の「地域の現状や課題に関する意見交換会の概要」を見ているのだが、町内会長との意見交換会で「少子高齢化対策について」とある。そのことについて、「市に要望することは、企業及び学校を誘致し、仕事場を増やすことが必要だ」と記載されており、括弧書きで「地域で解決できることではない」とある。これはそのとおりだと思う。国・県・市で何か対策を講じるべきだと思う。自分の住んでいる上野田も、将来的に見ると空き家が大分問題になってくると思っている。空き家問題について課題にしたほうがよいと思う。

【藤本会長】

次に猪俣委員より意見を求める。

【猪俣委員】

地域が今「何に困っているのか」「何を必要としているのか」、自分自身疑問に思う部分がとても大きい。例えば、町内会長との意見交換は非常に必要なことだと思う。町内会長から話を聞かせていただいて進めていくこともありだと思う。

【藤本会長】

続いて大滝委員より意見を求める。

【大滝委員】

自分は30数年前に牧村から移住してきた。移住してきた頃は結構、部落の集まりが多かったような気がする。ただ最近では農地の関係が整備され、農家組合的な事項が減ったためか、部落的な常会や総会を開く回数が非常に少なくなってきたような気がする。当然、仕事もあるため少ないに越したことはないのだが、自分の部落は年で多くても5回程度の集まりがあればよい程度である。他の部落がどのようなになっているのかは分からないのだが、結局、集まらなければ話題や議題といったもの自体が出てこないように感じている。これをどうしたらよいのかということも、またおかしな話になってしまうのだが、現在は「何が今必要なのか」「何を議題として上げなければならないのか」といった種が出てきにくい状態になっていると思う。そのため、以前説明にあった「少子高齢化」から始まり5項目ほどあったものを基本ベースとして、委員の意見を聞きながら項目の中から1つまたは2つ程度に的を絞って活動していくこと

ができればよいのかと思う。正直、話を聞いていても、何をしてよいのか、何を提案してよいのかがピンときていない状況である。自分の意見があれば 1 番よいと思うのだが、今のところ考えがまとまっていない状態である。自分の勉強不足だと思う。できることであれば、最低でも町内会長との懇談会というか、意見交換会のようなことを早いうちに 1 回くらいはできればよいと思っている。

【藤本会長】

続いて千代委員より意見を求める。

【千代委員】

先ほどの説明の自主的審議事項の中に「高齢者の交通手段」というものがあった。資料の中ではまとめられているが、これについては市でどのような対応をしてきたのか。だんだんと高齢化社会になってきて、結局は人口が減少していき、交通手段がものすごく減らされている。津有区に限らず、全地域同様だと思う。そのため、改めて津有区で同じ課題を取り上げ、いろいろな話し合いをして再度テーマを見つけてもよい気もする。無印良品が地方に出向いて販売している。あれはとてもよいことだと思う。過疎地等に訪問販売をすることも 1 つの方法だと思うが、我々住民の足としての交通手段が今ものすごく疎まれてきている。それは車社会ということがあるため、高齢者も危険な運転をしなければならなくなる。そのためコミュニティバスのような巡回して動けるような方法があればと思う。前期でどのような話や結論になっていたのか知りたい部分もある。今一度、この課題を津有区の課題に盛り込んでもらえればと思う。そして津有区独自の意見を出せばよいと思っている。そのためには町内会長との意見交換も必要だと思うし、その他、大変ではあるが地域住民との話し合いができる方法があればよいと思う。市でもバスのアンケートをとっていると思う。住民に依頼して路線に乗ってもらい、何年かに 1 度アンケートを実施している。しかし、それが全然反映されていないような気がする。だんだん捨てられている地域がある。それでなくてもバス路線が少なくなっている。そういったものに対して高齢化社会の中において、どういったものが必要なのか議題にあげてもらえばよいと思う。

【藤本会長】

続いて相馬委員より意見を求める。

【相馬委員】

「少子高齢化」については全国的に話をしているため、津有区で話をしても多分解

決策はないと思う。国は税金を取りたいため働けといい、子どもが少ないから子どもを作れというが、両立は無理だと思っている。その話はいくら協議しても解決策はないと思う。逆に必要なのか疑問に思う。また町内会長が一番地元の話を分かっている立場であるため、津有区で何が必要なのか、意見交換をしたいと考えている。もし町内会長との意見交換を実施したいといった場合、事務局で段取りをしてもらえるのか。

【藤本会長】

事務局に回答を求める。

【山崎主事】

事務局で町内会長と連絡を取り、会を設けるかたちになる。

【相馬委員】

例えば、中学生と意見交換を行いたいとした場合も同様か。

【山崎主事】

そうである。

【相馬委員】

町内会長は忙しいと思うのだが、地元のことを知っているため意見交換を実施できればと思う。

【藤本会長】

続いて中島委員より意見を求める。

【中島委員】

非常に重いテーマであるため、正直、申し訳ないのだがよく分からない。

【藤本会長】

簡単に結論が出せないということも貴重な意見だと思う。続いて藤井委員より意見を求める。

【藤井委員】

自分も漠然としているのだが、「少子高齢化」「高齢者の交通手段」のどちらにせよ、やはり津有地区がいくら頑張ったとしても、国で対応してもらわなければ解決できないと思う。「高齢者の交通手段」に関しても、足腰の悪い高齢者が公共交通機関のバス等を利用するわけもない。そのためコミュニティ系のバス運行等を要望したほうがよいと思っている。予算等の関係は市に一任し、陳情のような要望が一番よいと個人的には思っている。また、町内会長との意見交換については漠然としているため、中学

生や高校生といった子どもの意見も貴重だと思っている。そのため、子どもたちとの意見交換もしてみたいと思うため、機会があれば場を設けてほしい。

【藤本会長】

次に古川 勝夫委員より意見を求める。

【古川 勝夫委員】

今年度から地域協議会委員になったが、このような大きなテーマや問題等に対してなかなか自分の意見が出てこない。他にも意見が出ていたが、今後は高齢者が本当に増えていくと思う。そのため、「高齢者の交通手段」ということも、これからは本当に考えていかなければならないと思う。また地域的な問題は、各町内会長が一番理解していると思う。そのため、町内会長との意見交換もぜひ実施してほしいと思っている。その中で津有地区の問題点は何なのか、参考にしながら今後検討していったらどうかと考えている。

【藤本会長】

最後に田中副会長より意見を求める。

【田中副会長】

自分は平成町に来て、たった5年である。また地域協議会委員には、町内会長の推薦でなった。その際に、平成町にどのような課題があるかを聞いた。前町内会長、現町内会長より励みの言葉だったのだと思うのだが、「大したことはない」「何の問題もない」と言っていた。なぜそうなのかと、逆に疑問を持ちながら5年間過ごしてきた。資料にある津有区の町内会データを見ると、平成町は人口が962人であり、津有区の中で一番多い。世帯数は366である。この資料を見て自分はびっくりした。この中から自分は選ばれたのかと思い、少し恐縮した。現在自分はいろいろな活動をしているが無職であるため、午前・午後と2回散歩をして平成町の周りを歩きながら町全体を見ている。企業の数が大小合わせて21社以上ある。またアパートの数も地図と現地を見ながら数えてみた。これも20くらいある。大ざっぱに考えると、住民の3分の1から2分の1程がアパートの住民ということになる。いわゆる、都市型のサラリーマン的なかたちである。そして工場がある。他の町内は、田んぼに囲まれたところが多いように思うので、町内によって問題点が違うと思う。自分は平成町を中心としたスポーツ振興会にも入っているが、どのような住民の集まりがあるかという、年に4回小運動会がある。小学生から高齢者まで参加できるものである。また、自由参加であ

る綱引き大会やグランドゴルフ大会がある。そのほか賽の神がある。住民の交流というと、この4つ程である。しかし、アパート住まいの人は全くそれに参加しない。また、町内だよりも配られていない。結局、住民の意識や交流も高くはならない。平成町町内会は、そのような町内の特徴があると思っている。他の町内会の人口や世帯は、数字的にはかなり低い。そのため、持ち上がってくる問題もそれぞれに違うと思う。自分もよく分からないが、その地区の町内会で何が必要なのかということが、具体的に把握できないと話し合いにもならないと思う。平成町辺りの人間が話すのと、他の町内会の住民が話すのでは考えも全然違うと思う。他の委員は、おそらく長く地元に住んでいると思うため、問題意識も高いと思う。そういうところで、それぞれの地域の問題を出しながら、お互いに理解していくことから始めていかなければ、なかなか津有区全体の要望は出てこないように思う。まずもって一緒の問題は出てこないと思う。

【藤本会長】

突然の指名にも関わらず、それぞれの立場でお答えいただいた。大きく分けると、どういう課題にするのかとの具体的な課題に関わる意見と、その課題を設定するために、どのような方法があるのかといった意見が出たと思う。具体的な課題については、「空き家問題」「交通手段の問題」「少子高齢化の問題」等が出ていた。例えば、具体的に今後自分たちがすべきこととしては、町内会長との意見交換会の実施、中高生・若者の意見を収集する、そのほか田中副会長の意見にあったが、それぞれの町内によって課題が異なっていると思うため、お互いの課題が何なのかを^{ひれき}披瀝し合う中で津有区としての課題を設定していくことで、方向性を持てる気がしている。突然の話し合いであったため、意見が出しにくかった部分もあったかと思うが、今の意見を参考にしながら正副会長と事務局で、今後どのように進めていくのかについて元となるような素案を提示し、そこから具体的にどうしていくか協議・検討していく方向でよいと思っているがよいか。

(よしの声)

では改めて素案を提示し、協議・検討したいと思う。以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「②自主的審議について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：9月28日（月）午後6時30分から 津有地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議について
他に何かあるか。
(発言なし)
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。